構成的グループエンカウンターの原理に基づいた合唱指導について

中学校教育コース
41070930　羽田咲子

論文要旨

小学校高学年や中学校の音楽授業において、「歌わない生徒」への指導は音楽科の教師にとって大きな悩みとなっている。このことについて立石裕子(2004)は、生徒が声を出さないのは、思春期の特徴である自己意識の高まりにより、他者からの評価に敏感になるためであると述べている。

本研究では、このような生徒の歌うことへの不安や抵抗を軽減するための方法として、構成的グループエンカウンターに焦点を当てた。

先行研究では、音楽科の授業では教師と生徒のコミュニケーションや信頼関係が重要であり、そのための方法としてエンカウンターが有効であると示されている。また、エクササイズが行われていなくても、熟練教師の授業にはエンカウンターの要素が含まれていることが明らかになっている。しかし、音楽科授業へのエンカウンターの導入は、エクササイズを取り入れる形でしか行われていない。

そこで本研究では、エクササイズではなく、歌唱活動そのものをエンカウンターの原理に基づいて構成し、それにより生徒の歌うことへの不安や抵抗感をどれだけ除去できるか実証的に確認することを目的とする。

そのために、まず自己開示と非言語的情報の言語化を分析の視点とし、熟練教師と実習生の授業比較を行った。次に、この２つの要素を取り入れた場合と、取り入れなかった場合の模擬授業 VTR を作成し、その VTR についての質問紙調査と集団インタビュー調査を行った。その結果、熟練教師の授業では自己開示と非言語的情報の言語化の使用頻度が高かった。また質問紙調査と集団インタビュー調査の結果、自己開示を行っている授業評価の平均点が有意に高かったのに対し、非言語的情報の言語化については有意差は確認できなかった。

このことから、非言語的情報の言語化よりも自己開示の方が、生徒の心理的負担の軽減と、意欲の向上において有効であると考えられる。

引用・参考文献

1. 井上富美子(2002)『音楽科授業における教師の介入に関する研究～構成的グループエンカウンターの理論を援用して～』宮崎大学卒業論文。
2. 國分康孝, 國分久子, 片野智治, 岡田弘, 加勇田修士, 吉田隆江(2000)『エンカウンターとは何か～教師が学校で生かすために～』図書文化。
3. 立石裕子(2004)「中学校音楽科における歌唱・合唱活動の在り方に関する一考察　―中学生を観察とした、歌唱活動に対する意識に関する質問紙調査を通して」『広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要』16 巻, 181-195 頁。